

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091800138		
法人名	有限会社 ケアサービス九州		
事業所名	グループホーム ふぁみりー伊川		
所在地	福岡県飯塚市伊川字原の前1番地1		
自己評価作成日	令和2年9月26日	評価結果確定日	令和2年10月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズン
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和2年10月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「人としての尊厳…」 「地域社会とともに…」 の基本理念を意識したケア、支援にあたっている。朝のラジオ体操1・2で身体をほぐし、自分たちの住まいは自分たちの手で、と美化に取り組んでいます。春先には各居室の裏庭に好みの花も植え楽しんでます。例年であれば、夏休みのラジオ体操に参加するため早起きに挑戦します。また、管理者が音楽療法のボランティアの関わりから市内各所で開催されている「いきいきサロン」に入居者様、職員と参加し地域の人達との交流を積極的に行っています。市設置の収集ボックスの管理も引き受け、日曜日に開錠・施錠を行っています。私たちは「家庭的」を心がけ、できる限り家庭の延長での支援を大事に大切にしています。また、食事には十分に気を配っています。ご家族来ホームの折は一緒に過ごすなどしていますが好評です。自由に交流できるようになった折にはぜひお越しください。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者による基本理念の講話が継続し、4月入職した職員も理念を語っている。入居者の自己選択や決定を促す配慮を月目標に掲げ、職員の決めつけを戒めながら、日々の暮らしを支援している。大声や暴言、暴力行為のモニタリングや分析で、引き起こす要因を見極めたり、担当者会議で家族の要望を話し合い、主治医が処方された薬で「おはようございます」との発語や手が動くようになった入居者もある。会食の意義を理解した管理者が調理担当者にもう一品とリクエストすることも多く、調査日昼前から美味しい匂いが漂っていたらし寿司に、入居者から「美味しい」との声が上がった。今月から家族や自治会長、地域の方々などの参加で、情報や意見交換の場である運営推進会議が再開予定で、大きく開けられた玄関をシンボルとして地域の中のつながりを大切に、入居者や家族の安心・満足・信頼を得る支援が展開している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **グループホームふぁみりー伊川**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に理念の唱和を行っている。また、理念を意識した月目標を掲げ職員の意識統一を図っている。さらに、代表者による「基本理念」の研修も行っている。	代表者による基本理念の講話が継続し、4月入職した職員も理念を諳じている。入居者の自己選択や決定を促す配慮を月目標に掲げ、職員の決めつけを戒めながら、日々の暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	各自自治会で取り組まれている「いきいきサロン」、夏休みのラジオ体操、人権学習など地域に溶け込んでます。ホーム前の収集ボックスの管理も引き受けている。行事の時は快く回覧をしていただいているが、今年度はお互いに自粛している。	9月のいきいきサロンは管理者のみの出席となった。管理しているリサイクルボックス周辺は清掃が行き届き、管理者が落ち葉を掃きながら登校する子供たちに声を掛け、地域の中のつながりを大切にしている。地域の方々の参加で大いに賑わった恒例の秋まつりは、再開を模索している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	代表は市民講座や認知症サポート養成講座の講師を数多く引き受け活動を広げている。管理者もキャラバンメイトとして地域に入っている。「子供110番の家」として登録もしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長をはじめ地域住民の参加に加え、訪問看護師の参加もあり、より幅広い意見・要望を交換する場になっている。今年度は開催なく、ホームの取組み、近況など郵送にて報告している。	今月は家族や自治会長、地域の方々、市担当者などの参加で開催し、入居者の状況や暮らしぶり、ヒヤリハットなどについて報告する予定である。会議を中止していた期間は関係者に書面で報告し、会議録を玄関で公表している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	例年であれば運営推進会議や月1の相談委員との意見交換は行っている。また、代表が連絡協議会の会長を引き受けたこともあり市との連携は密に取りやすくなった。管理者も同市で民生委員をしており行政とは良好な関係を保っている。	市に共用空間に洗濯ものをたたむ畳の間の設置の許可をもらったり、市からの依頼で管理者がフレイル予防教室の講師を引き受けている。市のケースワーカーに入居者から預かっている通帳のコピーを送付するなど、日頃から密に連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回マニュアルの再読と研修を行っている。加えて毎月の職員会議で防止に向けての取り組みを設けている。運営推進会議においても協議の時間を設けています。ホームの玄関は全開状態です。「子供110番の家」でもあり、地域の人達が自由にとの思いもあります。開放的にしています。	運営推進委員に身体拘束適正化委員の兼任をお願いしている。家族に了解を得て、体動が激しい入居者の安全に配慮しベッド柵を使用するかを検討するなど適正化に取り組み、虐待の芽チェックリストで日々の言動を振り返り、成果を報告している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の職員会議で身体拘束に付随して検討を行っている。7月は、「虐待の芽チェックリスト」を、今月は「高齢者虐待発見リスト」などのシートを活用し確認、理解を深め予防につなげています。2ヶ月に一度の間隔で続けていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表は実際に後見人を引き受けており、管理者も市民後見人の初回受講修了者であり必要時には活用に向けた支援が行える体制にはある。職員は毎年、県の「介護職員技術向上研修」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを段階にあった研修を全員受講している。	現在まで、日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用はないが、研修を重ね、いつでも活用を支援するために、玄関に資料を整備している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明に加え、「看取り」に関する本人様、ご家族の思いを伺っている。相互の思いが理解できる時間が作れていると感じる。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置しているが活用には至っていない。家族会、運営推進会議などの参加で意見、要望は拝聴している。また、来ホーム時には個々に対話の時間を設けるよう配慮している。	家族にホーム便りや個別の近況報告を毎月や2ヶ月毎に送付し、意見の表出を促している。自家製の野菜などの差し入れをされる家族もあり、伺った率直な意見は全職員で共有し、運営に反映している。	毎月発行されるホーム便りに写真を掲載したり、タブレットなどの活用で、理念に掲げた安心・満足・信頼を促進する関係づくりを期待します。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1の職員会議での意見交換はできている。必要に応じて、面談も行っている。代表に繋がったほうが良い時にはお願いする。職員側からの相談が多い。コロナが落ち着けば食事会を復活し職員の思いにもっともっと接していきたい。	夜勤者以外の全職員の参加で、月1回職員会議を開いている。職員の喫煙時間について、当該職員の意見を重視しながら話し合っている。管理者は職員の協力なくしてホームの運営はできないと明言し、個別の相談や意見を聞く機会を積極的に設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一昨年、就業規則の改定を行い、キャリアパス要件を追加した。個別に休憩できる場所の確保、親睦会、諸々の手当の増額、永続表彰制度の見直しなど職員の要望、意見を可能な限り取り入れている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	70歳までの雇用継続を明記。年齢、性別ではなく仕事に意欲があるか否かで判断している。地域においても個々の能力が十分に果たせるよう勤務面に対処している。また、家庭を大切にすることを優先できる勤務体制に配慮している。	18歳～70歳代の職員が、正職やパート、夜勤専従と、個々の事情に応じて勤務している。市内の系列ホームへの異動もあり、管理者が2つのホームの統括役として活躍している。先日正職になった職員には、代表者が初回は理念や認知症について講話し、キャリアアップ研修が開始されている。人材育成に努め、今後は永続表彰も検討中である。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年間(必須)研修に組みこんでいる。年1で顧問の社会労務士による「コンプライアンス及び接遇」研修を受ける機会を設けている。管理者は市・自治体主催の人権学習会に積極的に参加し学んでいる。	管理者が、来月の保険者主催の人権研修に参加し、内容を伝達する予定である。理念に入居者の尊厳を守ることを謳い、家族の職員の言葉遣いに関する意見を好機と捉え、内部研修に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じた外部研修を推奨。また、個人の研鑽の為の研修への自主参加の機会を設けている。個人研修は最低2回。受講料、交通費は会社負担。当日は出勤扱いとなる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	域密着型サービス事業所連絡協議会に発足時より今に至るが、他施設との交流で相互の活動や支援における悩み問題点などの解決策を話し合える場となっている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族に事前に見学をして頂き納得の上入居頂いている。入居待ちで複数回見えるご家族もおられます。要望等をしっかり傾聴しています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	「基本理念」に家族の安心・満足・信頼を得るとあります。信頼関係の上に支援はあると思います。ご家族とご本人の思いが異なることもあり調整に苦心することもあります。話し合いながらできる限りご本人の意向をくみ取れるよう心がけています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、医療は本人様の選択を優先している。入居中の歯科・眼科受診が生じた場合はご家族との話し合いで対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることを奪わない介護を心掛けている。周りから「ありがとう」と多く聞けるよう、配慮している		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来ホームは多い方だと思う。いろんな意味で家族の支援には感謝している。お互いに言いづらいことでも言い合っていると感じている。行事は勿論だが、運営推進会議に関心を持って頂けた事に感動しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常的に関係が遠のいている感はあるが、いきいきサロンで知り合いと再会したり、馴染みの美容室・化粧品店に行くなどの支援は行っている。	入居者直筆入りで、家族に台風見舞いを出したところ、すぐに返事があった入居者もあり、今後もハガキの活用を予定している。コロナ禍に配慮しながら、玄関近くにシールドの仕切りを設けたテーブル席を設置し、短時間の面談を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の会話がし易い場になるようソファテーブルの配置替えを行っている。日中はホールのテレビはつけないようにしている。居室での観賞は自由である。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	殆どが看取りを経ての退去であるが、近隣のご家族には運営推進会議のメンバーに残って頂いたり遠方よりコロナ・台風見舞いのTELがあったり近くに来たので寄りましたなどの来訪者があり気にかけて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人お一人との対話を大切にすることで、見えてきた要望や希望・嗜好等を情報シートに落とし込み職員会議などで検討する糧としている。実施できるものは即、実行に移すことで喜びを共有しています。	フェースシートやアセスメントシートを整備し、介護計画に入居者の言葉をそのまま表記している。毎月のケアカンファレンスで職員が把握した情報を共有し、さらなる思いや意向の把握に努めている。	入居者の思いや意向を把握するために、アセスメントした日付で印字の色を変えなどの工夫で全職員による情報の共有を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、馴染みの習慣や暮らしを把握するようにしている。職員間との共有は毎朝の申し送りノートや職員会議で伝えるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様の言動を記録することを意識づけている。その中から自立支援への出来ること探しをしていく。訪問看護師とも連携を取り状態把握に努めている。運営推進会議にも出席。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランは成果と反省、新しい課題を分析協議しみんなで作り上げる。モニタリングは毎日チェックし、介護記録に反映するよう努めている。	現状に即した介護計画を作成するために、大声や暴言、暴力行為のモニタリングや分析で、引き起こす要因を見極めている。又、担当者会議で家族の要望を話し合い、主治医が処方された薬で「おはようございます」との発語があったり、手が動くようになった入居者もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の行動・気づきは日々の個人記録、業務日誌に記入。また、入社時に連絡ノートに目を通し業務に入ることを決め、支援の統一を図っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院、受診など家族の事情を踏まえ柔軟に対応している。一昨年はお孫様の結婚式に参列させたいとの家族の思いを酌み、式のみだったが同行した。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年、地域開催の「いきいきサロン」や本人様の生活の場だったサロンへの参加支援は行っている。参加者からの声かけに戸惑われることもありますが、いい雰囲気を楽しんでいます。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人様・ご家族の希望を優先している。24時間対応で救急医療体制、連携も取れている。入居中の歯科・眼科受診が生じた場合はご家族との話し合いで対応している。	24時間対応可能な2ヶ所の医療機関や訪問看護ステーションとの連携で、適切な医療受診を支援している。希望されたかかりつけ医の往診に立ち合われる家族や受診に同行される家族もある。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1の訪問。連携は密に取れている。看取り後などは職員のケアも含め振り返りの研修時間も取れている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族、病院との連携は取れている。家族との情報の共有にも配慮している。安心して戻って来られるよう早期退院へ向けての話し合いも行い実現している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重篤化、看取りについてご家族の意向を伺います。(同意書あり) ご本人とは自然の会話の中で折に触れ思いを聞きます。状況の変化で思いが変わることも視野に入れ対応しています。ホームでの自然な看取りを望まれるケースがほとんどである。	昨年、看取りの同意書はいただいていたが緊急入院となった方は、1ヶ月食事も摂らず点滴も抜去する行為もあり、家族の同意を受け、主治医や訪問看護と連携しながらホームで看取っている。現在、全入居者がホームでの看取りを希望しているため、訪問看護師が看取りを振り返り、1人で夜勤をする職員の不安を解消している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルを必須研修としている。対象となる入居者がいた時は、振り返りで訪問看護師より指導を受けている。近いところでは、吸引器の準備(即、使用してもらえるよう)を全職員ができるよう習得に努めている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災・通報・避難誘導訓練は行っている今回、緊急連絡網の伝達過程を知るため会議中止をまわしたが悲惨な結果に終わった。「災害時だったらどうするのか」と話し合い、職員の意識改革に取り組んだ。	年2回日中や夜間帯を想定した避難訓練を実施している。自治会長や近隣の協力体制もあり、停電に備えてヘッドライト、電池等を追加し、入居者や職員25名分の感染予防用品を準備している。食品などの備蓄一覧表は貼り出す予定である。今回、緊急連絡網の稼働を全職員に周知徹底している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年間研修で「プライバシー保護の取り組み」を必須研修として学んでいる。プライバシー侵害かと思われる行動が目につけばお互いが注意・指摘しあえる職員の関係を今以上に作っていき、学んでいきたい。	入居者は〇〇さんと氏名で丁寧に呼びかけている。運営者や管理者は、敬語での会話を指導している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活上での諸々の選択、嗜好の選択、そして決定を増やしていきたい。10時の憩いの時間で「〇〇が食べたいね」「〇〇に行きたいね」と話が出れば即、翌日までにはかなえるよう努力します。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本、食事や入浴の時間はほぼ決まっているが本人様の要望、体調を優先し柔軟に対応している。他の時間帯は個々に過ごしていただいているが、癒しや寛ぎになっているかどうか見極め支援を心掛けている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前の更衣準備は一緒に行っている。朝の挨拶の折「その色素敵!」「よく似合ってますね」と褒めることを意識している。お一人が散髪をされると私も…、と待たれるなどおしゃれに関心を持たれることが増えてきた。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現入居者様で食事の準備を一緒に行うことは嬉しいが、豆やフキの皮むき、大根、山芋のすりおろしなどお願いしている。味付けの声掛けには拒否される。下膳される方は少ないが車椅子の人はマグカップだけでもカウンターまで下げて頂く。	食卓の透明なテーブルクロスの下に色づいた柿の落ち葉が入居者の定位置に置かれている。調査日は昼前から美味しそうな匂いが漂っていたちらし寿司に、入居者から「美味しい」との声が上がった。会食の意義を理解した管理者が調理担当者にもう一品とリクエストすることも多く、ホットプレートでお好み焼を作ったり、握り寿司を宅配でなど、全員で食事を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事の摂取量はチェックを行い栄養状態を把握している。体調不良時は高カロリー飲料や調理方法に工夫を凝らし食されるよう配慮している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1の歯科診療での口腔ケアもあるが、毎食後のケアも欠かさず行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者の排泄パターンに応じてトイレ誘導を心掛けている。日中は布パンケアを行いパットの使用量を減らす努力をしている。	退院時前止めおむつの場合も、早々にリハビリパンツでトイレでの排泄を支援している。リハビリパンツや尿とりパットの経済的負担にも配慮し、排泄パターンに沿った声かけをしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の指示にて薬を用いることはあるが、食べ物・水分・動くことを意識づけ極力服薬は避けている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人様の希望があれば夜間を除きいつでも入浴できる体制は整ってはいるが、一応一日の入浴介助は3名(車いす使用者・自立)で対応している。お風呂が大好きと言われていても自然と拒否の日が増えることも。	日曜日以外は入浴できる体制を整え、週3回の入浴を支援している。脱衣場や広い浴室は換気や室温が管理され、入浴剤を入れて個別の入浴を支援している。入浴を億劫がる入居者もあるが、浴槽につかると「気持ちが良い」になっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車いす使用者は足の浮腫軽減の為、午後は居室にて休んで頂いている。他の方はホールソファで傾眠されるなどされている。夜もしっかり休まれている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬剤師の指導のもと管理を行っている。事故防止の為、薬のセッティング→確認→服薬時の声出し(日付、名前、食前・食後か)の3度にわたり確認をするなど細心の注意を払って支援している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の楽しみには気を配っている。焼き物に興味を持たれている方は窯元散策。購入された茶碗は大事に使われています。今は焼きそば・にぎりずし・お好み焼きパーティを楽しんで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年、恒例のバスハイク(温泉・花見・料理)を楽しみにされ。回転すしも喜ばれていた。秋にはご家族、地域を招いての祭りでにぎわった。今年度は柿ちぎり・土筆採り・ふき採りと個々の外出を行った。	管理者は、食事量が少なくなった方と近隣の温泉に出かけ、気分転換を支援している。ホームの畑のサツマイモの収穫も予定され、来月は、コロナ禍に配慮し少人数ずつで、リンゴ狩りに出かける予定である。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	3名がご自分で財布を管理されているが、ご家族と行かれることもなく、買い物支援はできていない。本人様の希望があれば職員同行は可能。ホームのおやつの買い出しはよく行っていた。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話所持は1名おられるが家族との会話は今のところない。年賀状はご家族に出している。好評である。今年は、家族との接触がないため、台風見舞い・コロナ見舞い等、はがきを活用する支援を行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に手作り暖簾をかけている。ホーム内の装飾や食事にも季節感を出すよう工夫している。柿のシーズンには150個ほどの吊るし柿が窓の外に暖簾状態で下がっている。ホーム内に尿臭を感じないよう気を配っている。	玄関やホーム周囲は清掃が行き届き、玄関ドアは大きく開けられている。玄関を入ると透明シールドの仕切りを設置した面談コーナーが設けられ、その奥の厨房からは美味しそうな匂いが漂っている。季節のグッズが飾られた共用空間は食卓や椅子、ソファコーナーが設けられ、ウッドデッキから爽やかな風が入り、入居者は其々の場所で寛いでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	暖簾をかけることにより居室のドアを開放して頂けるようになりホールが明るくなった。テーブルやソファの配置換えでくつろげる場所、休憩場所等の確保も行っている。家族、知人は居室で気兼ねなく過ごしていただく配慮をしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた馴染みの品をできるだけ持ってきてもらっている。食器(飯碗、湯呑、箸)は個人のをを使って頂いている。少しでも家庭に近い状況で生活をと願っている。	居室には管理者手作りの暖簾がかけられている。どの居室もドアや掃き出し窓が開けられ、換気に留意している。各居室とも清掃が行き届き、大きなクローゼットは整理整頓され、入居者の動線を確保している。椅子やテーブル、伴侶の遺影等が持ち込まれた居室もあり、遺影に仏飯を上げる配慮もなされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム全体がバリアフリーとホール周りの手すりの設置により安全な環境整備を心掛けている。またホール内の置物が障害物とならないよう気を配っている。		